

南無阿弥陀仏は
私のいのち

NO.
444

平成 27 年
1 月号

え
し
お

1

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobihiro.jp/
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(撮影 国分尚三氏)

めでたい

「明けましておめでどうございます」、毎年繰り返される、年頭の決まり文句である。様式や言語は異なっても、世界の多くの地域で、年が明けけることを祝うようである。現代に生きている私たちも、当たり前のようにして用いている言葉ではあるが、一体何が「めでたい」のだろうか。

そもそもめでたいとは、「愛で甚^{いた}し」が語源であり、賞賛する以外にないほど素晴らしいというのが原義である。年を取る(老いる)ことを嫌う私たちにとって、年が明けけることがこの上なく素晴らしいとはどういうことなのだろうか。

若い、病気になり、死んでいくことからは極力遠ざかろうと努力をする。しかし私たちの身は、老・病・死の現実をありのまま引き受けていく。不思議なことに、私たちは年を取ることは避けようとするが、新年はめでたいと迎えるのである。

私たち個人のはからいでは、避けることしか考えない年月の経過。それを「おめでどう」に「おめでどう」と応え、互いの喜びとして受けとめていった人々の歩みが、私たちのいのちの根底には流れているのである。

みな共にこの上ない素晴らしいいのちを賜っている。人と比較することしかできない私のいのちが、実は誰とも比べることができない、かけがえのないものであったこと、つまり「めでたい」ものであったことを、年頭において確認している言葉なのではないだろうか。

(蓮井 邦宗 記)

年頭所感

住職 岸本 秀一

「生かされているいのち尊し」と聞けば、「そうだった」と肯くと同時に、そのように生きていない自分がある。自分の思いに縛られて生きている。縛られていることさえ気付いていない。そのこと

を親鸞聖人は「煩惱具足の凡夫」という。この無自覚な在り方を「罪惡深重」と教える。

「今年こそは」凡夫の身を自覚したい。三日坊主でも、気付けば周りが教えている。

川柳に「もの忘れべりな言葉『あれ』と『それ』」「骨が減り 知人も減るが 口減らず」「つまずいて 足元見れば 何もなし」とある。

すべてが仏智、その仏智に照らされて、初めて愚鈍の身と知らされる、これを念仏成仏と戴く。

本年も宜しくお祈りします。



修正会のご案内

日時 平成27年1月元日
午前6時より
場所 西徳寺本堂

※勤行終了後、第1会館2階「梅檀の間」にて新年会を行います。ビンゴゲームでは豪華賞品を取りそろえ、おいしいお雑煮もご用意致します。ご家族・ご友人をお誘い合わせの上、ぜひともご参詣ください。お待ちしております。



お念仏を伝承してくださった七人目の高僧は、親鸞聖人の本師である源空上人（法然上人）（1133～1212）です。上人は、岡山県の美作に武士の子として生まれ、九歳のとき夜討ちに遭われて、父が亡くなります。父の遺言は、「テロなくす

ための戦争 テロを生み」という連鎖を断つ、「仇を恨んではならない。出家して、ともに救われる道を求めよ」という教えです。比叡山に行かれた上人は、天台宗の教えを学ばれますが迷いを断てず、さらにすべての人びとと共に救われる仏道を求めて、「一切経を五回も読み込まれます。それで、親鸞聖人は、上人を「本師」と崇め、「源空は、仏教に明らかにして」と讃えられます。

源信僧都の『往生要集』の冒頭の言葉（39参照）「自分のような、頑なで愚かな者は、お念仏以外に救われる道がない」に目を開かれ、善導大師の「一心に弥陀の名号を専念して、行住座臥に、時節の久近を問はず、念々に捨てざるは、是を正定の業と名づく、（『教行信証』「信巻」所引『観経疏』）」という、世間の価値観を越える念仏のみの教えに出遇われます。そして、

その理由が「かの仏願に順するが故に（同）」と、すべてが阿弥陀仏の願いに順う道理であることに感動され、比叡山を下りて京都東山の吉水に草庵を開き、ご縁のある善悪の人びとに、ただ念仏の教え



正信偈の話 ④1 松井憲一

本師源空明仏教、憐愍善悪凡夫人。真宗教証興片州。選択本願弘悪世。
（本師・源空は、仏教に明らかにして、善悪の凡夫人を憐愍せしむ。真宗の教証、片州に興す。選択本願、悪世に弘む。）

これ真宗（『浄土和讃』）の「真宗」の左仮名には、「シンジツホンガンナリ」とあるように、阿弥陀仏の本願を宗（要）とすることで、この本願の教えを信じて浄土に生まれて往く証を、「教証」とい

います。この凡夫人を平等に救う本願の教証を、独立して宣言された恩徳を讃えて「片州（大陸のインドや中国にたいして、片隅にある島国の日本）に興す」といわれます。「戦争を 知るかも知れぬ 子どもたち」「愛国心 あるからこの反戦さ」という、不穏な時代を生きる者として、

を一筋に勧められます。その上人の姿勢に、聖人は「善悪の凡夫人を憐愍」されたと頷かれます。真宗は、宗派の意味でなく、真実を宗とすることで、「念仏成仏集」の冒頭で、「南無阿弥陀仏 往

生の業、念仏を本と為（『教行信証』「行巻」）といわれます。「選択本願」念仏の教え、つまり「阿弥陀仏によって選び取られた願い」は、南無阿弥陀仏となつて、現にはたらいっていることを、信念の強さと学問の深さと人格の円満さで、「悪世（戦乱・天災・貧困の世）に弘」めていかれました。「ただ一向に念仏すべし（『一枚起請文』）」に帰依した人々は、学僧、聖、貴族、武士、盗賊、遊女を含む庶民におよんでいます。その状況に、阿弥陀仏のお姿を見た聖人は、「智慧光のちからより 本師源空あらわれて 浄土真宗をひらきつ 選択本願のべたまう（『高僧和讃』）」と讃えられます。

晩年に聖人は、上人との出遇いを「親鸞におきては、ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらさべしと、よきひとのおおせをかぶりて、信ずるほかに別の子細なきなり。…たとい、法然聖人にすかされまいらせて、念仏して地獄におちたりとも、さらに後悔すべからずさうろう（『歎異抄』）」と、お念仏に疑問を持つお同行たちに語られました。

山門の言葉

生死の迷い



介護生活に終わりは

前のごとは全く覚えていないなど、いくら努力しても報われないことばかりだといわれる。

近年、若年性認知症の患者が増加傾向にあるといわれている中、あるニューズ番組で、六十四歳で発症した母親の介護に奮闘する様子が特集されていた。三十一歳の娘さんが働きながらたった一人で面倒を見ているのだが、母親の症状は多岐にわたり、記憶のほとんどは曖昧で、目を離すと徘徊することもあり、これまで二度も行方不明になるなど、苦勞の絶えない生活が続いているという。

娘さんは病気の進行を少しでも遅れさせたいという思いから、二人で出かけることを続けているそうだが、外食中に突然、母親から罵声を浴びたり、喜んで帰宅しても一時間

なく、回復する見込みはおろか、完治する可能性は今のところゼロに等しい。しかし彼女は、病状が改善されることなくとも、母親には「ただ笑顔で暮らしてくれさえすればいい」と願っていると話す。

積尊は人間のいのちを生老病死であらわし、人生は苦であると教えてください。いのちの道理としては当然のことなのに、我々にとつてはなぜ苦しみとして感じられるのか。それは自分の思い通りにならない、人間のはからいでは間に合わない身を与えられているからである。

苦悩の現実に立たされるとき、苦しみの消去方法しか求めることができなない。しかし彼女は現実から逃避せずに受け止めていこうとしている。その姿は私に、自分の分別に振り回されることが生死の迷いなのだということに気づかせてくれた。

(木村 専正 記)

日誌

11月11日～20日 本山茶所布教(山崎)

11月15日 定例聞法会
混声合唱団「エコー」練習

11月16日 城北ブロック会聞法会
(大塚・大和田 参加者20名)

11月18日 仏教青年会報恩講「出離法蔵の道」
講師 大島 義男師

11月19日 『唯信鈔』に聞く 講師 宗 正元師

11月22日 同行会「現代の聖典」に聞く
法話 仲井 真裕

11月24日～28日 御正忌報恩講 出勤
(補導式務衆として岸本住職、
御堂式務衆として蓮井・仲井参加)

11月27日・28日 宗祖忌
12月1日～10日 本山茶所布教(主任 木村)

12月2日 責任役員会・総代会
12月6日 混声合唱団「エコー」練習

12月7日・8日 中興忌

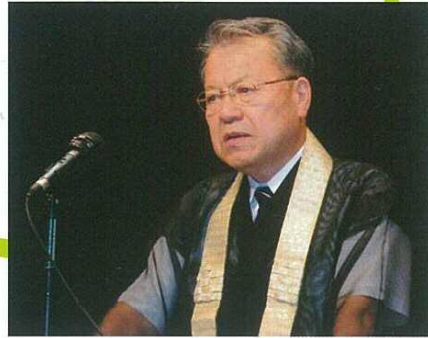
婦人会 特別布教の 御案内

2月例会は、特別布教として、現在「えこお」に正信偈の話を連載載いております松井憲一先生からご法話を頂戴致します。

先生は元大谷大学講師であり、佛光寺本山においては長きに亘り各種研修会等で講師をお願いしています。是非この機会に御聴聞戴ければと思います御案内申し上げます。

日時 平成27年2月4日(水)
午後1時より

場所 西徳寺会館 1階「星月の間」



庭の柿の実も赤味を増し、一日一日と秋も深まってくるようです。10月29日、晴れて気持ちの良い日に、お磨きに参加させて頂き、楽しかったです。我家のお道具、どうしたらかがやきをとり戻せるか、なやみが一つ減り、ありがとうございました。

お寺で皆様に交じてお磨きしている時、「まあ、きれいに輝いている」と思った瞬間、日常生活では味わえない「やった!」という達成感を味わいました。お道具磨きと、毎日家の中でするお掃除も、きれいになる事は同じなのに、なんで異なった気持ちになるかしら・・・と思いました。そしてお昼に頂いたカレーライスも特別においしかったです。

11月1日の報恩講に初めて参加させて頂きました。講師の先生のお話は難しいものと思いましたが、「これはお隣の人のことかしら」「もしかして私のことかも・・・」そのような身近な事からはじまりで興味深く伺いました。また「えこお」でご活躍を読むだけだった合唱も、目の前近くで聴くことができ、体の細胞一つ一つが喜んで、生き生きとしていました。

お寺というところは「生きる処」ではないかと思いました。毎日の生活と同じことが、お寺では異なったふうに見えて、行っている事は同じだけれども、「ちがってみえた」・・・それはなんで?あたらしい息吹がふきこまれて、同じ生活がいとおしく、かけがえのないものになった、と思いながら家に帰りました。

毎日の生活でたまに『えこお』を読むだけ、なかなかお寺に行く機会がなくても、今回のお磨き・報恩講という機会に恵まれ、たとえ一人でも出かけてみれば、声をかけて下さる方もいて、行って良かったと思うて帰路につくことができました。

皆様にお世話になり、ありがとうございました。

(川口市 鬼武 裕子 様)

読者の声

掲示報 平成27年1月

- 元日(木) 午前6時 修正会
10日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習・新年会
11日(日) 午前11時 婦人会新年会
17日(土) 午後1時半 定例聞法会
18日(日) 午後3時 評議員会新年会
22日(木) 午後1時半 『唯信鈔』に聞く
講師 宗 正元師
24日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
午後5時半 同行会新年会
27日(火) 午後7時 仏教青年会『歎異抄』に聞く
講師 宗 正元師



えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

滋賀県 浄満寺 様
江東区 森平 和美 様
栃木県 大塚 静江 様

編集後記

明けまして、おめでとうございます。どうぞ本年もよろしくお願ひ申し上げます。

梅の花はお正月のあわたたしさが過ぎた頃、いち早く春の訪れを告げる花で「早春の花」とされていますが、現在の暦では、雪が積もる厳しい寒さの中でけなげに花を咲かせる「冬の花」となっています。

繁用な毎日をご過していく中で、今年も皆様と共に、親鸞聖人が明らかにされた南無阿弥陀仏のみ教を聴聞してまいりたいと願っております。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：

<http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)

saitokuji@ce.wakwak.com

城北ブロック会

去る11月16日(日)、大塚・大和田におきまして、城北ブロック会聞法会を開催されました。今回は初めて参加される方2名を含む、18名の会員の方に出席していただきました。

法話では、どれだけ曇っていても太陽の光は地上まで届いているように、阿弥陀仏の光も私たちがどれだけ煩惱にまみれていても、常に私たちを照らし護ってください。それが無量光であらわされる、阿弥陀仏のはたらきであると教えていただきました。

懇親会では、お酒がすすむにつれ初参加の方も打ち解けられ、大いに盛り上がりました。最後は恒例の一本締めでお開きとなりました。

次回は**平成27年3月8日(日)、王子北とぴあ**におきまして聞法会を開催します。大勢の方の参加をお待ちしております。

(蓮井 邦宗 記)